

令和6年度 産業廃棄物税充当事業 実績報告書

事業名：	循環型社会に貢献できる産業人材育成事業（仙台二華業高）
事業実施期間：	平成30年度から令和6年度
担当課室名：	高校教育課
担当班名：	キャリア教育班
TEL：	022-211-3625
e-mail	E-mail : ko-career@pref.miyagi.lg.jp
URL：	URL : https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/koukyou/car-top.html

1 事業の目的

汚泥など産廃物の適正処理方法及び堆肥化に関わる研究や、プラスチック容器などの廃棄物抑制に関わる研究等により、その成果を地域等に還元し、循環型社会の形成に寄与できる人材の育成を目指す。

2 当該年度の実施事業の概要・実績

「世界の水問題解決への取り組み」をテーマに高校2年次生、3年次生がそれぞれ週3時間、週2時間課題研究に取り組んでいる。毎年十数名の生徒をカンボジアに派遣し、現地の水環境問題・廃棄物問題の現状と課題を探り、その解決に向けた研究・支援活動を継続的に行っている。

カンボジア農村ではトイレの整備が遅れている。乾期があり水が安定的に手に入らず、下水施設も整っていないため、その場で汚物を処理できるバイオトイレ・エコサントイレの導入を考えている（バイオトイレグループ）。

また、現地では屋台から出るプラスチックゴミが周辺に散乱し不衛生な状態となっている。これを防ぐため、現地では産業廃棄物となっているサトウキビの搾りかすの繊維（バガス）から、紙すきの手法を用いてエコ容器を作れないか検討している（エコ容器グループ）。更にはこのエコ容器を販売して、中退率が多い地元の学校の教育水準の向上につなげられないかとも考えている。

生徒のこのような研究・支援活動を通して、尿尿処理の仕組みやプラスチックゴミの問題を学ぶとともに、身近な廃棄物や水問題・環境問題への関心を高め、研究の成果を近隣の小中学校で発表することを通して児童生徒の関心も高めることを事業の目的としている。

3 当該年度の実施事業の成果

トイレグループは今年度も安全で衛生的なトイレを維持・管理する方法について、様々な工夫がどの程度有効かを検証する実験を行った。今年度は特に、現地でどのような好気性発酵を利用した堆肥作りが行われているかを調査することで、より現地で手に入りやすい材料を用いたバイオトイレづくりを目指すことを心がけた。

今年度はエコ容器・教育グループを選択する。生徒がいなかったなのでこの分野の研究は来年度に持ち越されることとなってしまった。

今年度も地域の牧場、大学の先生方、大学生・大学院生・卒業生の方々にご指導を頂きながら学会発表、近隣の小学校（仙台市立連坊小路小学校）での啓蒙活動を行うことができた。

今年度もメコン川フィールドワークを雨季・乾季それぞれに実施することができ、現地住民のニーズを踏まえたバイオトイレの開発を継続することができた。また、ようやく現地の村民宅へのバイオトイレ設置の目途が立ったのでより完成度の高い試作品の作成を目指している。

4 今後の展開

コロナ禍でも学びを止めないため、これまでもオンラインや感染対策に工夫をしながら活動を行ってきたが、今年度からはコロナ禍前以上に、言語活動や校外活動、近隣の小中学校への訪問、対面での学会発表、海外の国際交流の場での発表・議論と本来の活動を行うことができた。

しかしながら、コロナ後の物価高や円安などの影響で全てのものが値上がりし、生徒・保護者の負担も大きくなってきている。

今後も、産業廃棄物に関する課題を共有したり、解決策の開発を一緒に行ってくれる人を増やすなど、学校内外での活動を一層活発に行っていきたい。

5 廃棄物の削減・リサイクル、適正処理の促進の効果等を示す指標の数値

(指標：関連授業時数)

令和4年度	令和5年度	令和6年度
122	166	108

6 事業費の推移

単位：千円

令和4年度	令和5年度	令和6年度
1,474	2,181	1,500